

## 感謝、賛美と礼拝

### 感謝

まず、感謝というテーマからお話ししましょう。多くの人々が、祈りは単に神に何かを求めるものであるという印象を持っています。いわば、神にあなたの買い物リストを持って行くようなものです。それは非常に限られた不十分な祈りの視点です。祈りは単に一つの楽器の演奏ではなく、オーケストラ全体です。そのオーケストラには様々な楽器があります。私たちはそのうちの3つ、感謝、賛美、礼拝を取り扱います。

それらはみな、祈りにおいて欠かせない部分です。もしあなたに、買い物リストを神に持って行く習慣があるなら、特に感謝、賛美、礼拝をどのように結びつけるかを学ばなければ、あなたが願っているものが得られずに買い物から戻ってくるようなことが多いのではないかと思います。なぜなら、神は、私たちが神に近づくことのできる特定の条件を定めておられるからです。最初に言わせてください。感謝と賛美なしに、神への臨在の中へと、神へ近づく道はありません。神はそれを絶対的な条件として定められています。

私は二年ほど前、私と同年代で、私よりも信仰生活が長い年配のクリスチャンと話していました。彼の名は、この国ではよく知られています。私がとても尊敬している方です。そして彼は、私が感謝と賛美なしに神に近づくことはできないと言っているのを耳にしました。彼は、「私はクリスチャンになって以来、そんなことを聞いたのは初めてだ。」と言いました。それは、彼の祈りの人生に革命をもたらしました。

ですから、私たちはきょう、実りある充実した祈りの生活を願うみなさんにとって、大変重要なものを取り扱います。

感謝、賛美、礼拝という3つのものをあなたの頭の中で区別する小さなヒントを与えましょう。それぞれ神に近づき、神とつながる方法です。しかし、それらは違った側面で神と私たちをつなぎます。これは非常に単純なもので、例外もあるでしょうが、取り上げる価値はあります。感謝によって、私たちは神の素晴らしさを認識します。賛美によって、私たちは神の偉大さを認識します。そして、礼拝によって、私たちは神の聖さを認識します。ですから、感謝は神の素晴らしさと私たちを結びつけます。賛美は神の偉大さと私たちを結びつけます。礼拝は、人間のたましいの最も崇高な行為で、神の聖さと私たちを結びつけます。

感謝をささげるというテーマでこの特定のセッションの残りをお話しします。ヘブル 12:28 を読みたいと思います。

「こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、憤みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。」

「感謝しようではありませんか。」というのは、ギリシャ語では「恵みを持つ」で、*charis*(カリス)となっており、それは、「ありがとう」と言うことなのです。現代ギリシャ語をご存知の方はいらっしゃるかわかりませんが、標準ギリシャ語では「ありがとう」は「*a-har-isto*」で、恵みの *charis* と直接関連しています。ですから、みなさんに言いたいことは、恵みと感謝をささげることには、直接的なつながりがあるということです。感謝しない人は、神の恵みの外にある人です。感謝しないで、神の恵みにあずかることはできません。

これを引き出している、みなさんにもなじみのある3つの現代言語があります。フランス語の *grace* です。 *Grace a Dieu* (グラス・アデュー) とは、「神に感謝する」という意味です。それはまさに、「恵み」という言葉で、英語の綴りとまったく同じです。イタリア語の「ありがとう」は、*grazie* (グラッツェ) で、恵みと直接関連しています。スペイン語では *gracias* (グラシアス) です。ですから、この3つのラテン語に基づくロマンス言語は、すべて恵みと感謝の直接の関係を保持していることが分かります。私が強調したい、私たち全員にとって非常に重要なことは、私たちが感謝しないとき、私たちは神の恵みの外にあるということです。神の恵みの中にいて、感謝しないではできません。あなたは神の恵みから感謝を切り離すことはできないのです。

ですから、私たちは、「さあ、感謝しよう。」あるいは、「恵みにあずかろう。」とすることができるのです。それは、同じことを言っているのです。あなたは感謝することなく、恵みにあずかることはできません。

私と一緒にそれを言いましょ。それを強調したいのです。私が一度言いますので、後について教えてください。「私たちは、感謝することなく、恵みにあずかることはできません。」アーメン、神を誉めたたえます。

続いて、おもにパウロの書簡から感謝についてのいくつかの言葉を見てみましょう。4つの書簡から見ていきます。コロサイ人への手紙 3:15-17 から始めましょう。

「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。」

これは、提案ではなく、命令です。感謝の心を持つ人になりなさい、です。パウロは続けています。

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。あなたがたのすることは、ことばによることによりとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。」

このように、私たちは神に感謝をささげることなく、何かをすることは決して許されていません。私たちが行なうすべてのことに対する2つの方法は、「イエスの御名によって」、「主によって神に感謝すること」です。そして、それは実に素晴らしい境界線を定めます。特に、若い人たちが私のところへやって来て、娯楽の場や何かのパーティーに出席するために、「私はこれをして問題ありませんか。」と聞きます。私はこう答えます。「もしあなたがそこに行って、主イエスの御名によってそれを行ない、主によって神に感謝をささげることができるなら、大丈夫です。もし、そうでないのであれば、良くないでしょう。」それは、私たちに行なうことへの自由に対する制限を設けます。あなたは、言葉においても、行動においてもなすことは何でも、すべて主イエスの御名によっておこない、主に感謝をささげてください。ですから、感謝はオプションではなく、必須です。

それから、エペソ 5:18 でパウロは、聖霊に満たされ続ける意味について語っています。

「また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。」

教会がどれほど否定的なことについてフォーカスし、肯定的なことを無視しているかは驚きです。というのは、みな酒を飲むべきでないことを知っていますが、いったいどれくらいの人が聖霊に満たされなければならないことを知っているのでしょうか。聖霊に満たされるとどうなりますか。次の節で教えています。

「詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」

ですから、あなたが聖霊に満たされると、神に感謝を捧げ続ける者となるのです。あなたが神に感謝を捧げる時間をどれくらい費やしているかによって、聖霊の満たしをある程度は量ることができます。なぜなら、あなたが神に感謝を捧げることを止めるとき、聖霊が漏れ始めています。それは単に一つの確かな兆候にすぎません。

また、I テサロニケ 5:16-18 の、新約聖書の中でも最も短い節の部分でもありますが、それは非常に多くのことを語っています。

「いつも喜んでいなさい。」

非常にシンプルですね。それを行なうために恵みがもっと必要です。

「絶えず祈りなさい。」

祈りには決して終わりがありません。言い換えるなら、あなたは常に祈っていなければならないわけではありませんが、「私は祈り終わった。」と言うことは決してできないのです。スミス・ウィグルスワースの言ったことだと思いますが、彼は 30 分以上祈ったことは一度もないが、祈りなしに 30 分以上過ごしたことはないということです。それは、絶えず祈ることの意味をうまく表現しています。

そして、その聖書箇所の変更の 3 番目はこうです。

「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」

キリスト・イエスにあって、神が望んでおられることは何ですか。すべてのことについて感謝することです。ですから、もしあなたが感謝を捧げていないなら、あなたは神のみこころの外にあるということです。お分かりですか。私は適切な場所で適切な働きをしている多くのクリスチャンの働き人を取り扱ってきましたが、彼らは神のみこころの外にいて感じていました。そして、それは場所や働きの問題ではなく、感謝し続けることをやめてしまったからです。ですから、忘れないでください。感謝することをやめる瞬間、あなたは神のみこころから離れてしまうのです。あなたが何をしているかによるのではなく、あなたが神に応答していないからです。

そして、ピリピ 4:6 です。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」

感謝することなく、神に願いを持って行くことは決してしないでください。

何年も前、私はジョン・ウェスレーの記事に非常に感銘を受けました。私は、この節に対する彼のコメントをいつも思い出します。「あらゆる場合に祈りと願いによって」というフレーズから、「あらゆる場合に祈りによって」という言葉を抜粋して、ウェスレーは、「私は、神が祈りによってすべてをされ、祈りなしには何もなされないと確信させられた。」と言いました。私は、それは実に基本的な真理であると信じます。

パウロはここで言っています。「感謝することなく神に願ってはいけない。あなたが願うことは何でも、感謝とともに持って行きなさい。」

そして、すでに触れた、神に近づくことについて考えてみましょう。最善の箇所は、詩篇 100 篇で、非常に美しい有名な詩篇です。神の家に来て神に近づくことについて語っています。4 節にこうあります。

「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。」

神へ近づくのに 2 段階あることに気づいてください。最初は、門を通して、次にその大庭を通してです。門は、大庭への許可をあなたに与え、大庭は、実際の神の家への道を与えます。しかし、あなたは、「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつその大庭に」という所定のルートによる以外に、そこに入ることはできません。神へ近づく最初のステップは感謝です。次に賛美です。私は人が感謝と賛美を伴った所定の方法で来ることのない限り、神の近くへ行く道はないことをまったく確信しています。みなさんの中には、時々祈っていて、神から遠いと感じている人がいらつしやるかもしれません。おそらく、その理由は、あなたは所定のルートを通して来ていないのでしょう。あなたは大庭の外に立って、神に叫び、神があなたの声を聞き、憐れんでくださるでしょう。しかし、あなたが感謝と賛美を携えてこない限り、神に近づくことはできません。神はそれを定めておられ、それをを変えることはありません。

ある人は、こう言うかもしれません。「私には神に感謝することは何もありません。なぜ、神に感謝しなければいけないのですか。何もかもうまくいかないし、私の人生はめっちゃくちゃです。なぜ、神に感謝しなければいけないのですか。」と。詩篇の作者は 5 節で 3 つの答えを与えています。4 節後半から読みます。

「主に感謝し、御名をほめたたえよ。主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまで、その真実は代々に至る。」

これらの 3 つは常に真実です。あなたがどのように感じようと、どのような状況にあらうと、決して変わることがなく、主は常にいつくしみ深く、主の恵みは永遠で、その真実は代々に至ります。神に感謝をする、3 つの永久的に変わることのない理由があるのです。あなたの感情や状況にフォーカスするのではなく、これらの永遠で変わることのない神

の御性質と神の私たちへの取り扱いにフォーカスしてください。そうすれば、あなたは絶えず神に感謝する人となるでしょう。私たちはみな、神に感謝すべき多くのものがあり、それに感謝しないことは恥ずべきことです。

次に、ルカ 17 章でイエスに会った 10 人のらい病人(ツアラアト)の話があります。らい病人は汚れていたのに、誰に近づくことも許されていなかったことをご存知だと思います。その病気が伝染しやすかったため、彼らが行く道から離れるようにみなに警告をして、「汚れている、汚れている！」と叫び続けなければなりません。しかし、彼らは遠くから声を張り上げてイエスに叫んで言いました。「イエスさま、先生、どうぞあわれんでください。」そしてイエスは、彼らにとてもシンプルな答えをされました。「行って、自分を祭司に見せなさい。」さて、らい病から癒された、あるいはきよめられた人は、自分を祭司に見せ、もう感染していないという証明を受け取らなければなりません。ですから、彼らに、行って、自分を祭司に見せなさいと言うことによって、イエスは、「行く途中であなたはいやされる。そこに着くまでに祭司はあなたがもうらい病を病んでいないと認めるであろう。」と言っていたのです。それが信仰です。時に、私たちは行く途中で癒されます。もし、私たちがじっとして、何も起こらないと言うならば、何も起こることはないでしょう。

さて、彼らは全員らい病からきよめられましたが、たった一人だけ、ユダヤ人ではなくサマリヤ人一人だけが、戻って来てイエスに感謝を捧げました。そして彼は、ひれ伏してイエスに感謝したのです。イエスは言われました。「十人きよめられたのではないか。九人はどこにいるのか。神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」それからその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。」ギリシャ語では、「あなたを救った」です。言語は非常に重要です。英語や日本語の訳でははっきりされていません。彼ら全員 10 人全員がきよめられました。しかし戻って来て感謝を捧げた、一人だけが救われたのです。彼らは全員からだの癒しがありましたが、戻って来て感謝した一人だけが霊的な救いである永遠のいやしを受けたのです。そして、彼だけがイエスの近くに来たのでした。ですから、感謝がなければ、神に近づくことはできません。

それから、感謝についてのもう一つの非常に重要な事実は、それが、神の超自然の奇跡の力を解放するカギであるということです。一つだけ、とても分かりやすい例を挙げましょう。五千人を養うヨハネ 6 章の出来事です。イエスの目の前にお腹を空かせた五千人の群衆がいました。そして、イエスの唯一の供給源は小さな少年のお弁当だけでした。しかし、イエスは言われました。「人々を座らせなさい。私たちが彼らに食事を与えるのです。」ヨハネ 6:11 です。

「そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしいだけ分けられた。そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。『余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。』」

イエスは祈りませんでした。イエスは神に何かを求めたのでもありません。イエスがしたことは、ただ、自分の手の中にあるものを神に感謝したことだけです。そして、ヨハネは明らかにそのことに非常に感銘を受けたに違いありません。なぜなら、続く 23 節で、数隻の小舟が来たことを次のように書いています。

「しかし、主が感謝をささげられてから、人々がパンを食べた場所の近くに、テベリヤから数隻の小舟が来た。」

奇跡が長い祈りによって解放されたのではなく、単純に感謝を捧げたことによって解放されたということをヨハネに印象づけました。そして、私たちは単純に感謝を捧げることによって奇跡を解放しないために、神の力を見逃してしまうことが多いのではないかと私は思います。

その少し後のヨハネの福音書の11章で、イエスは、埋葬されてから4日経っていたラザロの墓の前に立っています。イエスは長い祈りをせず、単純にこう言いました。「父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。」イエスが言ったのはそれだけです。そして、イエスはラザロに向かって語り、ラザロが出てきたのです。ここに書かれている方法で神に感謝する習慣を培わない限り、私たちは神の超自然の力の多くを見逃してしまうと、私は思います。一般的に、長い祈りが神の力を解放するとは私には思えません。聖書の中の実に力強い祈りのほとんどは、とても短いのです。ミリヤムが自分の兄弟を非難したためにらい病にかかったとき、彼女に対するモーセの祈りを思われます。モーセは言いました。「神よ、どうか彼女をいやしてください。」モーセが言ったのはそれだけです。もし、私たちの祈り求めるときに、より多くの感謝をささげるなら、私たちの願いは短くなりますが、さらに効果的なものとなるでしょう。

さて、私たちは感謝を捧げる正反対のことについて、聖書が何と言っているかというこの真理の暗い側面を見る必要があります。私にとって非常に意義深い聖句を挙げましょう。ローマ人への手紙1章でパウロは、神の知識から最も恐ろしい悪と罪深さへと向かった人類の墮落を見事な方法で要約しています。ローマ1章は人間の墮落と悲惨さ、悪についての聖書の中でも最も恐ろしいリストの一つで終わっています。どのようにして人はそのようになってしまうのかと考えるでしょう。答えは、ローマ1:21にあります。

「それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。」

その暗い穴の中へと落ちていく2つの墮落の段階、それがその章の終わりです。その2つとは何ですか。どちらも、否定的です。神を神としてあがめず、感謝もしない。みなさんに言います。私たちが感謝をやめるときは常に、滑りやすい道を下降し始めています。それは非常に危険です。決してその道に足を踏み入れないでください。なぜなら、それは回れ右して引き返すことが難しい道だからです。

また、Ⅱテモテ3で恐ろしいリストを見ます。ローマ1章とⅡテモテ3章を比較することは興味深いです。ローマ1章は論理的な面で、Ⅱテモテ3章は歴史的な面です。この時代の終わりの日には、人はどのようにになりますか。Ⅱテモテ3:1から見てみましょう。

「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。」

困難な時代は何をもたらしますか。人間の性質の墮落です。

「そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり……」

このリストで感謝することを知らない者はどこにありますか。汚れた者の前です。感謝しないことは汚れた者であると言わなければなりません。あなたは感謝しない汚れた者であってはなりません。もしあなたが感謝を捧げるなら、聖くあるための大きな助けとなります。

感謝の反対は何ですか。それはどのような行ないですか。多くのことばで表わせると思いますが、聖書の言葉ではそれはつぶやきです。あるいは、不平をもらすことです。みなさんにお勧めしますが、基本的に、あなたが何かを言うとき、それは肯定的であるか、否定的であるかのどちらかです。中立な言葉はごくわずかしかなかった。ですから、もし私たちが感謝しないなら、私たちはほぼ間違いなく、最終的にはつぶやき、不平を漏らすこととなります。つぶやくことに決して余地を与えないことですが、みなさんの中には不平を友としている人はどれくらいいるのでしょうか。それは、はじめであることに同意して下さると思います。そのような人にならないでください。

I コリント 10:10 でパウロが言っていることを見てみましょう。イスラエルがエジプトを出た後に陥った同じ間違いに陥らないようにと、パウロはクリスチャンに対して警告しています。7節にこうあります。

「あなたがたは、彼らの中のある人たちにならって、偶像崇拜者となってははいけません。」

8節に飛んで、

「また、私たちは、彼らの中のある人たちが姦淫をしたのにならって姦淫をすることはないようにしましょう。」

9節 「主を試みることはないようにしましょう。」

そして10節。「また、彼らの中のある人たちがつぶやいたのにならってつぶやいてはいけません。彼らは滅ぼす者に滅ぼされました。」

この例はたくさんありますが、民数記21章を見てみると、イスラエルは長く疲れる旅のゆえに、落胆し、忍耐がなくなっていました。彼らは神とモーセに対してつぶやき始めました。神は彼らの中に燃える蛇を送り、それらは民にかみつき、民が死に始めました。ですから、他のものを通して、燃える蛇をあなたにさらすことになるので、つぶやきだけでは終わらないのです。必ずしも実際の蛇ではない、あらゆる毒的なものが、不平や感謝しないことを通してあなたに入ってきます。

ですから、私たちは感謝を捧げるか、不平を漏らすかという正反対のものに直面しています。決心してください。私は感謝するようになる。私は感謝のための聖書的な基本を見出し、感謝のための聖書的理由を見出し、いつも神に感謝を捧げるようにすると。

## 賛美

感謝、賛美、礼拝という3つの人間の霊的活動は、神の御性質の3つの側面に関連させるものであると私は言いました。感謝によって、私たちは神の素晴らしさ、神が私たちのためにして下さるすべてのものは良いものであることを認めます。賛美によって、私たちは神の偉大さを認めます。それは、神の畏れ多い権威に対する私たちのふさわしい応答です。そして、礼拝によって、私たちは神の聖さを認めます。

さて、私たちは賛美にフォーカスしていきます。私が言った、神の偉大さを認識するということに照らしてみると、詩篇 48:1 で始めるのがふさわしいと思います。

「主は大いなる方。大いにほめたたえられるべき方。その聖なる山、われらの神の都において。」

神の偉大さへの認識は、神を大いに賛美することです。言い換えれば、私たちの賛美は、神の偉大さに比例していなければなりません。つまり、計り知れないものでなければなりません。私たちは、賛美の力と可能性を使い果たすことは決してできません。

そして、詩篇100篇の感謝について語るとき、感謝とは、私たちが神に近づく初めの一步、あるいは最初の段階であることが分かります。賛美は第二段階です。私たちは感謝を通ったあと、賛美に進みます。感謝と賛美はどちらも非常に重要な心理的効果があることを言いたいのです。もし、私たちがとても厄介で難しい物事を神に持って行くとき、神がすでにしてくださったすべてのことに感謝すればするほど、私たちが次に神に願う事に対してもっと神に信頼しやすくなります。しかし、もし、感謝とともに神のもとへ行かないなら、私たちは信仰を心理的に少しも建て上げないことになるのです。ですから、もう一度詩篇 100 篇4-5節を見てみましょう。

「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。  
主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまで、その真実は代々に至る。」

感謝と賛美を捧げるその3つの変わらない理由を繰り返すことに疲れることはありません。

今、あなたの聖書を開いて、信仰の行ないとして一緒にその部分を言ってみましょう。「主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまで、その真実は代々に至る。」言いましょう。「主よ、感謝します。」それが、この学びの応用です。

では、イザヤ60章から、もう一つの美しい描写をみなさんに紹介しましょう。これは、この後のイザヤ書の素晴らしい聖句の一つです。イザヤ 60:18 です。これは神の都の描写で、救いとイエスの血潮によって私たちが入る権利のある町です。イザヤ 60:18 でこの町の美しい描写がなされています。

「あなたの国の中の暴虐、あなたの領土のうちの破壊と破滅は、もう聞かれない。

私たちは、暴虐と破壊が遠くからかすかに聞こえる、神の臨在のある場所に来ることができます。しかし、神の臨在においてそれらの暴虐と破壊は現実的ではありません。私たちはどのようにして、そこへたどり着きますか。

「あなたは、あなたの城壁を救いと呼び、あなたの門を賛美と呼ぼう。」

神の臨在に囲まれたその城壁は、救いです。しかし、すべての門には賛美という名前があります。言い換えれば、あなたがその城壁の中に入りたなら、何の門を通らなければなりませんか。そう、賛美の門です。賛美なくてはそ



こに行けません。それが、神の忠実な臨在の中への唯一の道です。

このセッションの残りは、賛美についての7つの聖書的事実についてお話ししましょう。もっと多くありますが、この7つは意義深く、あなたの信仰を建て上げる助けとなるでしょう。最初に、主への言葉である詩篇22:3を開きましょう。

「けれども、あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。」

ここの、「住まいとしている」は、ヘブル語では、「座っている」でもあるのです。実際イスラエルでは、人々が私にどこに住んでいるか、と聞くと、私はヘブル語で「エルサレムに座っています。」という風に答えます。それが、標準ヘブル語の「住む」という言葉です。ですから、「あなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。」というのは、まったく正しいことですが、あなたはイスラエルの賛美の上に座しておられます、という意味でもあるのです。神はどのようなところに座しておられますか。御座です。ですから、「あなたは聖であられ、イスラエルの賛美に座しておられます。」と訳している聖書もあります。私たちが神を賛美するとき、「イエス、わが王を賛美で迎えん。栄光の主の御座を設けたまえ主よ」という賛美があるように、王としてイエスに御座を設けることはふさわしいことです。しかし、神はとても恵み深い方で、命令しているわけではありません。神は私たちのただ中に来てくださいますが、私たちが賛美の御座を神にささげるまで、私たちが神の王権を認めることにはならないのです。

今後、あなたがともに集まって神を賛美するときはいつも、王として座っていただくふさわしい御座をイエスにささげる自分を思い描いてください。「あなたは聖であられ、神の民の賛美に座しておられます。」と。

そしてもう一つ、詩篇 106:47 で、賛美は神が私たちを祝福してくださる一つの主な目的です。そして、それは、神の勝利の中に私たちを連れて行ってくださいます。ちなみに、詩篇は、ヘブル語では「*te-he-leem*」で、賛美という意味です。それが詩篇の書物のタイトルです。そして、あなたが聖書を学ぶなら、聖書で最も長い書物は詩篇です。ですから、ある意味神の完全な啓示の主要な要素の一つは、神の賛美なのです。もし、あなたが神を賛美することに困難を感じているなら、詩篇を読むことに時間を多く費やすことをお勧めします。できれば、一人きりの時であっても。それを声に出して読んでください。ただ読んで、こう言ってください。「主よ、これは私の祈りです。私はこれをあなたに向かって読みます。詩篇の作者を通して聖霊によって与えられた祈りです。私はそれを読みます。」しばらく経つと、賛美があなたにとって、もっと自然になっていることに気づくでしょう。あなたは賛美の習慣を養ったのです。

とにかく、ここで詩篇の作者が言っていることを見てください。詩篇 106:47 です。

「私たちの神、主よ。私たちをお救いください。国々から私たちを集めてください。あなたの聖なる御名に感謝し、あなたの誉れを勝ち誇るために。」

感謝、それから賛美、という同じ順序であることに気づきますか。私たちが神をたたえるとき、私たちは勝利の凱旋(パレード)をしているのです。古代ローマの文化や古代世界における凱旋(パレード)は、勝利を勝ち取るためではなく、すでに勝ち取った勝利の祝勝パレードでした。ですから、私たちが心から神を賛美するとき、勝利を求めているのではなく、祝勝パレードを行っており、私たちはその凱旋に加わるのです。パウロはⅡコリント2:14で言っています。

「しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。」

このように、勝利の行列は、勝利した将軍が白い馬が率いる馬車でローマの通りを行く祝勝パレードで、道路沿いの人々はみな、その人をたたえました。そして、彼が勝ち取ったすべての捕虜、すべての敵が彼の後ろに鎖で引かれて行きます。その様子を思い浮かべてください。私たちはどこにいますか。捕虜や敵のうしろで鎖につながれているではありません。道路沿いで将軍をたたえているのでもありません。では、どこにいるのでしょうか。そう、馬車に乗っています。私たちはどのようにして馬車に乗り込むのでしょうか。神をたたえることによってです。それが馬車に乗り込むためのステップです。

それから、詩篇30:11-12のことばは、多くの箇所引用されている意義深い箇所です。です。私は13年前に前妻を亡くし、そのことは私の人生にとって最も辛い経験でした。この11節は、まさにその通りであると言えます。

「あなたは私のために、嘆きを踊りに変えてくださいました。あなたは私の荒布を解き、喜びを私に着せてくださいました。私のたましいがあなたをほめ歌い、黙っていることがないために。私の神、主よ。私はとこしえまでも、あなたに感謝します。」

神が荒布を解き、嘆きから私たちを解放してくださるとき、目的をもってなされることに気づいてください。その目的とは何でしょうか。最終的に、私たちのたましいが神に賛美を捧げるように、です。私たちのたましいとは何でしょうか。みことばから直接の答えを言いますので、推測しないでください。それは非常に重要なことです。2つの聖句を合わせてください。詩篇 16:9 で詩篇の作者は言っています。

「それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでる。私の身もまた安らかに住まおう。」

ここでも、「私のたましい」となっています。多くの訳が異なる訳をしていますが、使徒の働き 2:26 で、使徒ペテロは、聖霊に促されて詩篇 16:9 を引用しています。しかし、ペテロはたましいという言葉を用いて訳しています。使徒 2:26 です。

「それゆえ、私の心は楽しみ、私の舌は大いに喜んだ。さらに私の肉体も望みの中に安らう。」

あなたのたましいとは何ですか。あなたの舌です。なぜ、舌があなたのたましいなのでしょう。なぜ、神があなたに舌を与えたかご存知ですか。そう、神をほめたたえるためです。舌は、私たちが神をほめたたえることのできる最高の器官です。それは私たちのたましいです。そして、ある意味、神に栄光を帰さない舌の用い方は、誤用です。なぜなら、神は、神に栄光を帰するために舌をあなたに置かれたのです。あなたが神をほめたたえるために舌を使うとき、それはあなたの誉れ、たましいなのです。

それから、イザヤ 61:3 を開きましょう。再び、これは、嘆き、絶望している人のためのメッセージです。この箇所を

通して、主は何年も前にうつろの霊から私を解放してくださいました。

「シオンの悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、悲しみの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるためである。」

これこそ、神がうつろの霊などから私を解放してくださったみことばです。憂いの心の代わりに賛美の外套を、という箇所に注目してください。あなたが落ち込みたくなく、あなたにサタンの暗闇の予感や悪い思いが入ってきてほしくないなら、賛美の外套をつければ、サタンはあなたの近づくことはないでしょう。

これに関する短い話を分かち合いたいと思います。昔、私がロンドンのベースターという地区で小さな教会の牧会をしていた時、奇跡的にロシアを脱出し、主に会い、聖霊に満たされたロシア系ユダヤ人姉妹がいました。彼女たちは、私の前妻をよく訪れ、私たちは一緒に祈っていました。実は、彼女たちは西洋のペンテコステ派以上に、にぎやかなロシア系バプテスト派でした。つまり、彼女たちはどのように主を賛美するかを知っていたのです。私たち4人は、ただ主を賛美する素晴らしい時を持っていました。玄関のベルが鳴り、教会のメンバーの女性が来たので、私は玄関に行きました。彼女は一人の男性を連れて来ていました。彼女は、「これは、私の夫です。彼は刑務所から出てきたばかりで、悪霊につかれています。夫のために祈ってもらえますか。」と言いました。当時、私は悪霊の取り扱いから遠ざかっていました。私は、悪霊をどう扱っていいのかわからず、私は非常に困りました。何も思い浮かびませんでした。私は言いました。「どうぞお入りください。私たちは祈っているところですから。」その男性は、慎重に私の元へ来て、言いました。「私は、こんなことは好きではありません。騒がしすぎます。私は帰ります。」神は私に答えを示されました。私は、「聞いてください。私たちはイエスを賛美していて、サタンはそれを憎んでおり、騒がしさを嫌うのです。さあ、どちらかを選んでください。今、あなたが出て行くなれば、あなたと一緒に悪魔がついて行きます。あなたがここに残るなら、悪魔はあなたを離れていきます。」すると、彼は言いました。「残ります。」約10分後、彼は私の元へ来て言いました。「悪魔は去りました。私は、それが喉から去るのを感じました。」私はそのことを決して忘れません。なぜなら、悪魔が私たちを困らせる以上に、いかに賛美が悪魔を困らせるかという、実証だったからです。

ですから、あなたが落ち込んだり、ふさぎ込んだり、不幸に感じたりする誘惑に会ったら、憂いの心の代わりに、賛美の外套を着けてください。私に効果があったので、それが働くということを私は知っています。

詩篇 33:1 で、作者はこう言っています。

「賛美は心の直ぐな人たちにふさわしい。」

それは、あなたの霊の美しい外套です。

それから、エレミヤ 33:11 で、賛美、感謝のもう一つの側面を見ることができます。そして、使われているどちらのことばも非常に重要です。それは、神の民の回復とエルサレムの通りで聞かれものについて語っています。非常に美しく、現代ヘブル語の歌はこれらのことばに基づいています。こうあります。

「楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声、『万軍の主に感謝せよ。主はいつくしみ深く、その恵みはとこし

えまで』と言って、主の宮に感謝のいけにえを携えて来る人たちの声が再び聞こえる。それは、わたしがこの国の繁栄を元どおりにし、初めのようにするからだ」と主は仰せられる。」

別の訳では、「賛美のいけにえ」とあります。賛美がいけにえであると理解することは重要です。それには何らかの犠牲が伴い、常に簡単であるとは限りません。そして、主を賛美する最も重要な時とは、あなたがそのような気分ではないときです。あなたの感情があなたに影響を与えないようにしてください。神の言葉は、あなたの感情がまったく逆であっても、何をするかをあなたに教えてくれます。

ヘブル13章はそれを引き出しています。ヘブル 13:15-16 です。

「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。」

どの程度神を賛美するべきだと言っていますか。絶えず、と言っており、やめてはいけません。

「善を行うことと、持ち物を人に分けることを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。」

つまり、賛美、感謝はいけにえです。そして、私たちにとって最も犠牲的であるとき、神に最も受け入れられるのです。すべてが私たちに不利な状況に思える時、その時こそ、信仰によって最も神を賛美するときです。それは犠牲です。

それから、詩篇 8:2 にあるように、賛美は靈的武器です。これは、私の好きな聖句の一つで、私はこの聖句を頻繁に引用します。とにかく、詩篇 8:2 のことばなしに長いメッセージをすることは私には、難しいのです。

「あなたは幼子と乳飲み子たちの口によって、力を打ち建てられました。それは、あなたに敵対する者のため、敵と復讐する者とをしずめるためでした。」

そう、神には敵がいます。それを知ることは重要です。そして神には、一つの特定の敵がおり、「敵と復讐する者」と言われています。それは誰ですか。サタンです。そして、詩篇の作者はサタンをしずめる方法があると言っています。

何年か前、私はスイスのローザンヌでフランス語の通訳者をつけてメッセージをしていました。私はフランス語がわかるので、通訳者の訳を聞いていましたが、フランス語でそれを「神は悪魔に沈黙を強要する」と言っていました。私はそれを決して忘れません。神は悪魔に沈黙を強要されるのです。「黙れ！」と。いつですか。私たちが神を賛美しているときです。このように、私たちの賛美は悪魔を黙らせます。なぜ、私たちは悪魔を黙らせる必要があるのでしょうか。悪魔が四六時中していることは何ですか。私たちを非難しているのです。あなたは神にこう言います。「神さま、なぜ悪魔を黙らせてくださいないのですか。」神は言われます。「私はあなたにそのための武器を与えたからだ。」と。

さて、詩篇 8:2 で「あなたは力を打ち建てられました」とあります。しかし、また新約聖書は旧約聖書の解説です。マタイ 21:15-16 を開いてください。これは、イエスのエルサレムでの奉仕の最後の週のことです。

「ところが、祭司長、律法学者たちは、イエスのなさった驚くべきいろいろの事を見、また宮の中で子どもたちが『ダビデの子にホサナ』と言って叫んでいるのを見て腹を立てた。そしてイエスに言った。『あなたは、子どもたちが何と言っているか、お聞きですか。』イエスは言われた。『聞いています。『あなたは幼子と乳飲み子たちの口に賛美を用意された』とあるのを、あなたがたは読まなかったのですか。』」

それで、詩篇の作者が「あなたは力を打ち建てられました」と言ったところを、イエスは、「あなたは賛美を用意された」と言いました。神の民の力を打ち建てるとは、賛美を用意することです。私たちがどれほど弱いかは問題ではなく、その武器は圧倒的なのです。ですから、詩篇の作者は、最も弱い者として幼子と乳飲み子の例を選び、彼らであっても、神を賛美するとき、敵に沈黙を強要すると言っているのです。

私たちが悪魔を黙らせることができるということを知ることは、私にとって素晴らしく、わくわくする喜びです。

そして、聖書的事実のリストの7つ目は、賛美は神の超自然的な介入のための道を備えます。まず、詩篇50篇を見てみましょう。この賛美のテーマで何度詩篇を開いているでしょうか。詩篇50:23です。神は言われます。

「感謝のいけにえをささげる人は、わたしをあがめよう。その道を正しくする人に、わたしは神の救いを見せよう。」

この、「正しく」という単語は、翻訳者によって挿入されたものです。もう一つの適切な翻訳はこうです。

「賛美のいけにえを捧げる人に、私は神の救いを見せる備えをする。」です。

その人は、自分の状況に来る救いの現れのための備えをします。

さて、その素晴らしい例があります。たとえば、Ⅱ歴代誌20章で、ヨシャパテがユダの王であったとき、南東から大軍が彼に向かって攻めてきました。ヨシャパテは、その大軍に見合う人数や資源がないことを知っていました。しかし、ヨシャパテは断食を布告し、神の民をユダに呼び集めました。彼らが断食し、祈っていると、主はレビ人を通して預言を与え、すべきことを語られました。神は言われました。「ある場所に攻め下らなければならない。あなたがたが戦うのではなく、主があなた方のために戦う。」ヨシャパテは言いました。「あなたがたの神、主を信じ、忠誠を示しなさい。その預言者を信じ、勝利を得なさい。」そして、翌日彼らは出発し、このことが起こりました。Ⅱ歴代誌 20:21 を読みましょう。

「それから、彼は民と相談し、主に向かって歌う者たち、聖なる飾り物を着けて賛美する者たちを任命した。彼らが武装した者の前に出て行って、こう歌うためであった。『主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。』」

同じ理由が再び出てきていますね。聞いてください。

「彼らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。」

残りの話を読むと、彼らは戦う必要はなく、一つの武器も用いる必要もありませんでした。賛美の武器が完全な勝利を彼らに与えたのです。そして、彼らの敵は互いに敵対し合い、殺し合いました。そして、ユダの人々が戦場に来てみると、彼らの敵はみな、死んでいました。彼らがすべきことは戦利品を取ることだけでした。なんと素晴らしい賛美の力の様子でしょうか。

それから、問題のただ中にある、哀れなヨナをちょっと見てみましょう。あなたはその話を知っているでしょう。彼は魚のお腹の中で祈っています。彼はかなり長い間祈っています。ヨナ 2:2、3 でヨナはこう言っています。

「私がよみの腹の中から叫ぶと、あなたは私の声を聞いてくださいました。あなたは私を海の真ん中の深みに投げ込まれました。」

そして彼は7節にわたって祈り続け、何も起こりませんでした。8節で、彼は神に感謝し始め、魚はそれ以上耐えられなくなりました。9節を読みましょう。

「しかし、私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえをささげ・・・」

それは実にいけにえです。あなたが魚のお腹の中にいるとき、神に感謝を捧げ始めることには決意が必要です、しかし、それには価値があります。それは報われます。

「私の誓いを果たしましょう。救いは主のものです。主は、魚に命じ、ヨナを陸地に吐き出させた。」

主はいつ、魚に命じましたか。ヨナが主に賛美と感謝をし始めたときです。

使徒の働きでも、パウロとシラスのミニストリーにおいて、美しい例があります。パウロは解放のミニストリーをしていて、占い師の女から悪霊を追い出し、その町全体が騒動になりました。パウロとシラスは激しくむち打たれ、最も厳重な牢屋に入れられてしまいました。真夜中でした、私のクリスチャンの友人の一人は、パウロとシラスは互いにこのように話していたのではないかと言いました。シラスがパウロに、「なぜ、君は解放の働きを始めたんだい？君が悪霊を追い出すまでは、すべてはうまくいっていたのに！」と言うこともできたと。しかし、彼らはそうしませんでした。彼らがしたことを読んでみましょう。使徒 16:25 です。

「真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。」

その牢屋にはそのような人はこれまでにいませんでした。

「ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。」

何が地震を解放しましたか。つまり、それは人々の鎖を解いた超自然的な地震で、普通の地震ではありませんでした。何がその地震を引き起こしたのでしょうか。そう、賛美です。ですから、賛美を捧げる人は、神の救いをみせるための神の道を備えるのです。

さて、すべてには触れませんが、短いリストで簡潔に締めくくりましょう。第一に、いつ神を賛美するか。その答えは毎日、永遠にいつも、絶えずです。疑いを去らせます。

次に、どのように神を賛美するか。心を尽くし、理解を持って、手を上げて、喜びの口と唇で、手を上げて。昨夜のいけにえとして、踊りをもって、タンバリンとダンスで。みことばの引用が与えられています。

誰が神を賛美しますか。詩篇 148 で神を賛美する29種類の人々がリストに上がっています。そして、あなたにまだ確信がないなら、詩篇150篇はすべての息のあるものはみな、と言っています。一人残らずです。

しかし、主を賛美しない人々の階層が一つだけあります。誰でしょうか。死人です。ですから、あなたは自分の問題をわかっていますね。もし、あなたが主を賛美していないなら、あなた自身で診断できます。あなたは肉体的には死んでいませんが、霊的に死んでいるのです。

## 礼拝

感謝、賛美と礼拝。礼拝によって、私たちは神の聖さを認識します。私は個人的に、礼拝は人間という存在ができる最も崇高な活動であると信じます。賛美と感謝は、おもにことばによるもので、口から出てきて、私たちは話したり、歌ったり、叫んだりもします。しかし、礼拝は言葉がおもなものではありません。それに気づいている人はごく少数であるので、このことはとても重要です。

私を知る限り、旧約のヘブル語、新約のギリシャ語のどちらも、聖書の言語で用いられているすべての言葉は、礼拝が体の姿勢で表現されています。礼拝は実に、言葉によるものではなく、姿勢です。もちろん、単に物理的身体の姿勢だけではなく、内なる存在全体の態度です。

聖書で礼拝特有の姿勢がいくつかあります。まず、頭を垂れることです。エジプトでモーセが燃える柴で神との会話をして神が民を救い出すという知らせを持って民と長老たちのところへ戻ったとき、彼らはひざまずいて礼拝したとあります。それは、ことばによるものではなく、姿勢でした。

そして、それはただ頭だけではなく、体の上半身であることが多いです。そして多くの場合、それに伴って手のひらを上にしてさし伸ばしています。ヘブル語の「ありがとう」という単語が「手」という単語と直接関連しているというのは、興味深い事実です。私が言っているように、ヘブル語はまさしく身体的な言語です。それは実に、抽象的ではなく、具体的です。ですから、「ありがとう」とは、手を伸ばすことです。そして、私たちが神に手を伸ばすとき、私たちは「ありがとう」と言っているのです。

私たちはまた、神が私たちに与えたいと願っているものを受け取るためにも、手をさし伸ばしていると思います。

そして、ひざまずくことは、礼拝のとても独特な姿勢です。私は、このひざまずくという習慣を保持して礼拝をしている教会を評価します。私は聖公会で育ったので、ひざまずくべきタイミングを知っていました。私は、膝まずくことは、礼拝の重要な部分であると信じています。あるカリスマ派や、あるペンテコステ派は、それを見落としていると思います。私は神の素晴らしい臨在をもたらした集会に参加したことがあり、私は集っている全員にひざまずくように提案しました。そして、私たち全員が神の前にひざまずいた姿勢になったとき、最も力強い聖霊の訪れを経験しました。もちろん、それは、その姿勢の意味の大部分を失った単なる宗教形式となりうることも分かっていたのですが、あなたから神の前にひざまずく祝福を奪うことはありません。

そして、これはおそらく、礼拝のおもな言葉であると思いますが、神の前にあなたの顔を伏すという意味です。神の前に地に顔をつけたことのない偉大な人物を聖書の中に多くは見出すことはできません。そして、これはおそらく、礼拝の究極的な行為でしょう。

一般的に、妻と私が依頼されて旅に行くとき、私たちは前もって自分自身を整えようとします。いつもそうするとは言いませんが、神の前に床に顔を伏すことになります。「神さま、私たちはすべてをあなたにゆだねます。あなたから来ない限り、私たちが与えるものは何もなく、力も、義もなく、知恵もありません。」ということ認めるような感じです。

私は、このジョン・バニヤンの言葉が好きで、それはいつも私とともにあります。「下にいる者は落ちる心配をする必要がない。低い者には高ぶりが無い。謙遜な者には導き手である神がいつもいる。」あなたが床に伏すとき、それ以上低くなることはできません。それ以上落ちるといふ恐れは必要ありません。神の前にあなたの顔を伏しているのは、安全な姿勢です。

預言者イザヤの書6章の最初の3節に非常に重要な原則を私たちに与えている天のような礼拝の例を見たいと思います。ここは、イザヤが天での主の栄光の幻を見た場面です。これは、私にとって常に意義深い章です。なぜなら、私はその時、初めてペンテコステの集会に行きましたが、ペンテコステの集会はどのようなものか知りませんでした。実際、ペンテコステ派のような人々がいることも知りませんでした。しかし、初めてその集会に行ったとき、そのメッセージはここでの場面でした。詳しくは話しませんが、当時私はイギリス軍兵士で、イギリス軍の兵士のような生き方をしていました。その個所では、イザヤが主の幻を見たとき、「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。」と言いました。私はまだ救われていないときに、「私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。」という言葉聞き、「誰もこのことば以上に正確に私を表現した人はこれまでになかった。」と思いました。その言葉のあとは、私は説教者のメッセージをちゃんと理解してはいませんでした。耳を傾けました。

とにかく、最初の3節を読みましょう。

「ウジャヤ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、セラフ



ィムがその上に立っていた。」

セラフィムは、火に直接関係する単語です。セラフィムは火のような被造物です。このように描写されています。

「彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、互いに呼びかわして言っていた。『聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。』」

私は常に、この3つの「聖なる」は三位一体の神格の3つのためであると信じています。聖なる父、聖なる御子、聖なる霊です。しかし、もしあなたがこの場面をちょっと想像してみるなら、礼拝と賛美の素晴らしい関係の概念を与えてくれると思います。賛美は言葉によります、ですから、セラフィムは主を賛美し、主の聖さを宣言しています。「聖なる、聖なる、聖なる主。」

しかし、それはイザヤが見た最初のものではありませんでした。最初に彼が見たものは礼拝でした。それらのセラフィムには6つの翼がありました。初めの2つで顔をおおい、次の2つで両足をおおっています。それは何でしょうか。それはある姿勢ですが、どんな姿勢ですか。礼拝です。礼拝は、神の前で敬意を表して顔を覆います。それは、神の前に敬意を表して覆われたからだです。

それから、残りの2つの翼でセラフィムは飛んでいます。もしあなたが奉仕として飛び、礼拝として顔と足をおおうなら、その割合は、礼拝のための4つの翼と奉仕のための2つの翼であることがわかるでしょう。それは、正しい割合だと信じます。私たちは礼拝のために奉仕の倍の時間と重要性を置くべきであると信じます。

さらに、奉仕は礼拝から生まれるべきであると思います。礼拝でまず神につながることなく、神の奉仕に携わるべきではないと思います。常に礼拝から生まれる私たちの奉仕には、まったくの違いがあると思います。

一方、奉仕がなく礼拝するだけであることは、偽善です。マタイ4:10のイエスの言葉を見てみましょう。サタンが自分をひれ伏し拝むようにとイエスに誘惑したときです。イエスは申命記から引用して答えました。

イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。

再び、順番に注目してください。まず、礼拝、そして仕える、です。

そう、礼拝のあとに常に奉仕が続くべきです。それを理解することは重要です。ほとんどの教会ではわずかな礼拝の時間があるだけです。人々は日曜礼拝をもち、それを礼拝と呼びますが、実際には礼拝がありません。それは賛美で、宣言です。しかし、直接的な礼拝はないのです。

しかし、ここ20年ほどの間に、礼拝が教会に戻り始めました。そして、ある意味、現在は礼拝をすることが流行っています。いわば、礼拝の特色を作っているような教会に集うようになるでしょう。そして、その礼拝がいかに素晴らしいかという誇りさえ持つことができるようになります。しかし、もし人々が単に奉仕へと移っていくことのないわがままな霊的形式として礼拝をとらえるなら、それは偽善です。人々はただ、素晴らしい日曜礼拝を持つだけで、家に帰って、

週の残りを自分自身のために生き、イエスのことばに耳を傾けません。「あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ」この2つは決して切り離されるべきではありません。奉仕は礼拝から切り離されてはいけなし、礼拝は奉仕から切り離されてはいけません。

さて、礼拝への進展を美しく描写している詩篇95篇の素晴らしい箇所があります。最初の2節は、叫びの描写、歓喜に満ちた賛美です。これほど騒がしい礼拝を許していない教会もあります。こう言っています。

「さあ、主に向かって、喜び歌おう。われらの救いの岩に向かって、喜び叫ぼう。」

叫ぶとは、叫ぶことです。大声で歌うという意味ではなく、叫ぶという意味です。

「感謝の歌をもって、御前に進み行き、賛美の歌をもって、主に喜び叫ぼう。」

再び、近づく2つの段階、感謝と賛美です。先ほどお話したように、神の臨在の中へ行く道は他にありません。

それから、次の3節は私たちが神を賛美し感謝すべき理由を教えています。聖書は非常に論理的です。ただ神に感謝し、賛美をするように私たちに求めているのではなく、その理由を教えています。詩篇100篇に3つの理由があったのを覚えているでしょうか。主は、素晴らしく、主のあわれみはとこしえまで、主の真実は代々に続く、です。これらは、神を賛美する3つの変わることのない理由です。そして、詩篇 95:3-5に以下の理由があります。

「主は大いなる神であり、すべての神々にまさって、大いなる王である。」

賛美は神の偉大さを認めると私が言ったことを覚えていますね。ここで、「大いなる」という言葉が2回用いられています。主は大いなる神であり、すべての神々にまさって、大いなる王である。そして、私たちは叫び、歓喜、興奮する賛美によって神の偉大さを認めます。

そして、全能の創り主としての神を見ることができます。

「地の深みは主の御手のうちにあり、山々の頂も主のものである。海は主のもの。主がそれを造られた。陸地も主の御手が造られた。」

私たちは神に感謝し、神の創造の素晴らしさをほめたたえながら神のもとへ来ます。

しかし、それは単なる道です。6節で礼拝に来ます。ですから、賛美と感謝は、礼拝の中への実に道であり、近づく方法です。そして、即座に礼拝に来ることに気づくでしょう。それは態度です。6-7 節。

「来たれ。私たちは伏し拝み、ひれ伏そう。私たちを造られた方、主の御前に、ひざまずこう。主は、私たちの神。」

私たちは口に出すことばから姿勢へと移ります。賛美と感謝で始めましたが、それがゴールではありません。クリス

チャンが単に賛美と感謝をやめると、神が持つておられる、言葉ではなく、姿勢・態度である、礼拝というゴールを見逃してしまいます。

「来たれ。私たちは伏し拝み、ひれ伏そう。私たちを造られた方、主の御前に、ひざまずこう。主は、私たちの神。」

私たちはこの方法以外に、何をするによって神として認めるのでしょうか。礼拝によってです。なぜなら。礼拝は神にだけ属しているからです。ですから、私たちが神を礼拝するとき、まさにその行為によって、主が私たちの神であると認めているのです。

「私たちは、その牧場の民、その御手の羊である。」

ですから、神の民として、神を礼拝することはふさわしいことです。それは、神の民である私たちと、私たちの創り主、贖い主なる神との関係を認めます。

さて、あなたが今聖書を開いてみると、この節がそこで終わってはいないことは不思議です。次の文の最初の部分が7節の終わりに含まれているので、奇妙な分割に思えます。こうあります。

「きょう、もし御声を聞くなら、メリバでのときのように、荒野のマサでの日のように、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」

なぜ、その「きょう、もし御声を聞くなら」という部分が、礼拝の部分に入れられているのでしょうか。それは素晴らしい選択です。なぜなら、私たちが礼拝するとき、私たちはまさに神の声を聞くからです。礼拝するとき、私たちは話すことを止めます。叫び、賛美などをするのはまったく構いませんが、それで終わりではありません。終わりにには、ある意味、私たちはあまり言葉を発することなく神の前に敬意の姿勢になります。私たちは黙り、静まります。

ある人が、カリスマ派は沈黙をととも恐れていると言いましたが、それは一理あると思います。しかし、沈黙の時は来ます。どのくらい静まるのでしょうか。神に10分差し上げたいですか。ほとんどの教会は、10分間の沈黙を持つことを、まったく容認できないと考えています。私は、10分でなければならないと言っているのではなく、神がどのくらいの時間かを決められると思うのです。私たちはそのような態度で神の声を聞くことに開かれていなければなりません。

妻と私は、定期的に、ほぼ毎日時間を取って、神を賛美し礼拝します。私はあまり良い声ではないので、妻が賛美リーダーです。私たちが礼拝の態度で神の前に私たちの霊を静めるとき、神は私たちに語ってくださったことが何度もあります。私たちは方向や警告、励ましを直接神からいただきました。私は預言的な発言について非常に慎重です。それらを信じる必要はないからです。しかし一般的に、礼拝の状況で起こる預言的な発言であり、その状況にふさわしいものであるなら、通常私は、神が神の民に語ってくださっていると信じることができます。しかしもし、私たちが礼拝の場に来ることがないなら、神が私たちに語ってくださる機会を、神に与えないことになるのです。

その進み方に気づいてください。叫ぶ、歓喜、活気に満ちた賛美。それは私たちを神の臨在の中へと連れて行きます。私たちはここで与えられている理由により神をほめたたえます。しかし、私たちが神の臨在の中に来るとき、それは変わります。もはや発言はなく、それは態度で、全能の神の臨在にふさわしい態度です。そして、その態度で私たちは神の声に耳を傾けます。

さて、新約聖書で礼拝についてのイエスのことばを見てみましょう。ヨハネ4章の良く知られている箇所です。イエスはヤコブの井戸でサマリヤの女と話しています。背景は説明しませんが、イエスは23節で言っています。

「しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。」

これは、注目すべきことばですね。全能の神が、ご自身を礼拝する人を求めておられるのです。しかし、私たちは神の条件である霊とまことによって神を礼拝しなければなりません。

それから、イエスは次の節でこう続けています。

「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

ですから、礼拝において、私たちは霊である神に直接結び付くのは、私たちの霊であると私は信じます。聖書によると、人は3つの要素から成り立っています。霊、たましい、からだです。私たちのたましいは、賛美と感謝においてとても活動的ですが、礼拝に来ると、神の霊と直接交わるのが、私たちの霊です。そして、私たちは霊とまことによって神を礼拝しなければなりません。

聖霊なしで、私たちは真の礼拝をすることができません。聖霊に満たされた経験のある方々は、私を支持して下さると思いますが、それはあなたの礼拝の方法を変えます。あなたは新しい領域を得ます。聖霊が私たちを完全な者やほかの人より優れさせるものではありませんが、聖霊はあるべき礼拝を正しく理解する力を私たちのうちに解放します。

しかし、それはまた真理を語っています。真理には、誠実が求められます。礼拝において誠実であるということを学ぶことは非常に重要であると信じます。これを表しているものとして、レビ記からこの様子を見たいと思います。レビ記は祭司的命題といけにえについて書かれた旧約聖書です。新約聖書のレビ記は何でしょうか。そう、ヘブル人への手紙です。

いけにえに関して、主は捧げるべきいけにえと、捧げるべきではないいけにえについて指針を与えています。1節と2節で、神は乳香と呼ばれる特定の芳香性樹脂がすべてのいけにえでささげられるべきであると命じています。その箇所、レビ記 2:1-2 を見てみましょう。

「人が主に穀物のささげ物をささげるときは、ささげ物は小麦粉でなければならない。その上に油をそそぎ、その上に乳香を添え、それを祭司であるアロンの子らのところに持って行きなさい。祭司はこの中から、ひとつかみの

小麦粉と、油と、その乳香全部を取り出し、それを記念の部分として、祭壇の上で焼いて煙にしないで。これは主へのなだめのかおりの火によるささげ物である。」

さて、いけにえには、様々なものがあります。小麦粉、油があります。それらは一部が焼かれます。しかし、乳香は全部焼かれます。乳香は、旧約聖書では礼拝の型です。私たちの神への捧げものはまた、神の働き人、祭司職の必要のためでもあります。しかし、ほかの誰のためでもなく、神だけへの私たちの捧げものの部分があり、それは乳香、すなわち礼拝です。いかなる時も、どんな人間の存在に礼拝をささげるのではなく、ただ主だけに礼拝を捧げるということ覚えておくことは何と重要なことでしょうか。

さて、乳香は木から採られる香りの樹脂の一種です。そして、それが焼かれると、素晴らしい香りを放ちます。それ自体はあまり美しいものではありませんが、それには、この素晴らしい香りがあります。それこそ、神が願っておられるもの、それこそが、私たちの礼拝が神へとなるものです。神の鼻に上る美しく、香ばしいかおりです。

一方、神のささげものとしておいてはならない者が一つあります。同じ章の11節を見てください。

「あなたがたが主にささげる穀物のささげ物はみな、パン種を入れて作ってはならない。パン種や蜜は、少しでも、主への火によるささげ物として焼いて煙にしてはならないからである。」

火に入る前の蜜は、甘くおいしいです。しかし、蜜は焼かれると黒くなり、くっついてぐちゃぐちゃになります。主が言われていることは、「火に耐えられない礼拝を捧げてはならない。乳香を捧げよ。それは火に焼かれるほど、甘さが増す。しかし、あなたが確かめ、試したとき、黒く、ひっついてぐちゃぐちゃになる礼拝を捧げてはならない。」です。それを考えてみてください。あなた自身に聞いてみてください。「私は祈りで蜜を捧げていないだろうか。それとも、私の祈りは乳香であるのか。私は、現実的でないことを神に言っていないだろうか。あるいは、私は霊とまことによって神に祈っているだろうか。」

最後の礼拝の生き生きとした様子は、I コリント6:16-17です。聖書が率直な本であるように、これは非常に率直な聖句です。パウロは言っています。

「遊女と交われば、一つからだになることを知らないのですか。『ふたりは一体となる』と言われているからです。しかし、主と交われば、一つ霊となるのです。」

私たちは率直になって、そのコントラストを見なければなりません。最初のたとえば、肉体的な、性的、不道德な一致です。しかし、まさしくそれと並行して、パウロは霊において主と一つになる人について語っています。つまり、2種類の一致があります。からだの一致と霊における一致です。礼拝はどちらでしょうか。まさにその通りです。礼拝は、私たちの霊が直接神と一つとなる唯一の方法です。そして、その一致から、そこに生み出すことがやってきます。礼拝は霊的な生産を私たちにさせるものです。それがお分かりですか。ですから、礼拝について考えるとき、あなたの霊が神と一つ霊で一致するようなものとなることについて考えてください。